

特集
高校生120人に聞いた
それ、女子とか男子とか関係ある？

コラム
東洋大学教授
高井昌史さん

りぷる

さっぽろ

50 秋

誰にとっての「当たり前」?

「女子のくせに」と言われたことがあるだろうけど、気にしていないから覚えていない。

福祉コースに進学しようとしたら、「男子なのに?」と言われた上に、学校の入学資格までなぜか女子限定だった。進学しなかったのに差別を感じた。



クラスメイトに「女の子なんだから落ち着きなさい」と言われた。

とか

お母さんに「女の子なんだから足を閉じなさい」と言われた。うるせーって感じ。

親に「ピンクのパンツをはきたい」と言ったら、「男なんだから」と言われ、悔しかった。色で男女を決めつけないでほしい。

友達にティッシュを渡しただけで、「男子のくせに女子力が高い」と言われた。

出席番号があいいうえお順だけでなく、男女でも分かれていることにモヤモヤ。

「男子だから力が強くないといけない」と体育の先生に言われた。その考えはおかしいと感じた。

「男らしさ」はたくさんある
「女らしさ」もおとなしい
えっ、そんなの当然でしょ、と思う人もいるし、
うーん、そうとは限らないよね、という人もいるだろう。
でも、その違いってどこから生まれて、
何がそうさせているんだろう?
自分の中で当たり前だと思っていた価値観、ちょっと見直してみない?
新しい時代の新しい価値観、高校生のみんなはどう考える?



アルバイト先の店長に、「女は結婚して仕事から逃げられるけど、男は仕事から逃げちゃいけない」と言われた。

BL*本を読んでいる男子を「キモイ」という腐女子(BL本が好きな女子)がいた。

※BL:ボーイズラブの略。男性(少年)同士の同性愛を題材とした小説や漫画などのジャンル

小さい頃、親に「男なんだから、そんなことで泣くな」と言われたことがあった。その時はそうだったと思うが、男子でも泣きやすかったり、心のデリケートな人もいるかもしれないから、全ての人に当てはまるとは思っていない。

母に「男なんだから手伝いしろ」と言われ、嫌だった。

父に「スカートをはけ」とか「女の子っぽい服装をしなさい」と言われた。面倒くさいからジャージのまままでいこうと思った。



高校生120人に聞いた

それ、女子とか男子関係ある？

親や先生、友達からふっと言われる「女子なんだから」「男子のくせに」。

別にいちいち気にしない、そんなのスルーすればいいだけ、なんて思いつつ、ちょっぴりモヤッとするときもある。高校生120人に、モヤッとする思いを聞いてみました。

※札幌市若者支援施設「Youth+(ユースプラス)」や市内の高校に通う10代の方約120名に協力いただきました。

「女の子なんだから、かわいらしい服装したら？」って言われた。自分は心の性と体の性が合わなくて、自分なりの服装をしているのに、自分らしい服装したらダメなのかな…って感じた。

「女子だからやらなくていいよ」とやりたい仕事をさせてもらえなかった。やりたいようにさせてほしい、男子に生まれたかったと思った。

男女差別は良くないとは思いますが、区別は必要だと思う。その理解が進めばよいと思う。あと、こういうアンケートにもモヤモヤします。

アルバイト先のお客さんに「ちゃんと仕事できないと、いいお嫁さんになれないよ〜」って言われた。知るか。

荷物を持たされる。男として生まれた宿命。



高校生の一日をのぞいてみたら、 いろんな**思い込み**があった件

授業、校則、部活に放課後…
日常生活には、「女子=○○」「男子=△△」という
いろんな思い込みが隠れてる!?
みんなもこんな経験ないですか?

EPISODE 01 朝の教室にて

高1女子 ゲーム好き

自分「昨夜中までスマホいじってたら、寝坊しちゃった」

友人「何してたの? 動画でも見てたとか?」

自分「ゲーム。FPS*にハマってて」

友人「それ敵をバンバン撃つやつでしょ? 女子のするゲームじゃないじゃん」

自分「まあ確かにね〜(スカッとするんだけどな〜。じゃあ女子のするゲームってなんだろう…)」

※FPS: First Person Shooterの略。プレイヤー視点で敵と戦うゲームのこと



EPISODE 02 服装・頭髪検査

高2男子 バンドが趣味

頭髪検査ってなんか意味あんのかな。高校生だって、好きな髪形にしていじゃん。女子はロングでもいいけど、男子は耳にかかったらアウトってどういう基準? 清潔感がある髪形っていうけど、女子のロングはきれいでも男子のロングは汚いってこと?

高2女子 制服はセーラー服

寒くてカーディガン羽織っていたら、先生に「制服の上に着るな、校則違反」「男子みたいに制服の中に厚着しろ」って注意された。いや、セーラー服の中に厚着なんか、動きづらいからしたくないし。結局カーディガン脱いだけど、校則のせいで風邪ひいたらウケるな…。



EPISODE 03 進路選択

高3女子 理系コース在籍

最近よく進路を聞かれて、理系って答えたら「おっリケジョじゃん」って言われるし、スマホの設定に時間かかってたら「リケジョなのにできないの〜?」って笑われた。理系だって機械が苦手な人もいるし、ただ勉強したいだけなのに、「理系」にわざわざ「女子」をつける必要がある?



EPISODE 04 体育の授業にて

高1男子 美術部 高1女子 バレー部

先生「男子は器具の片付け、女子はモップ掃除して」

男子「はーい(支柱重たいし、俺じゃ足手まといなんだけどな)」

女子①「片づけ遅くない? うちらがやった方が早く終わるのにね」

女子②「本当だね。まあ女子は掃除って言われたし、掃除しとこ」



EPISODE 05 部活動

高1女子 野球部のマネージャー

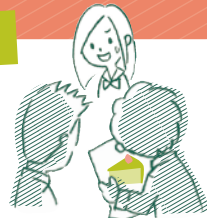
うちの野球部、女子部員は募集してないからマネージャーになったのに、知らない子たちから「男目当てじゃん」ってウワサされた。そんな気持ちで務まるほど楽な仕事じゃないんだけど。男子部活のマネージャー=男好きって思われるの、嫌だなあ。



EPISODE 06 放課後

高2男子 スイーツ好き

「テスト終わったらケーキバイキングに行こう」って友達と予定立てていたから、女子に「男子ふたりでケーキバイキング? よく行けるね〜」ってドン引きされた。女子はふたりでよく行ってるくせに、男子ふたりで行ったらいけないっていう制限どこにあるの?



「女子マネージャー」という生き方を考える

「運動部のマネージャー」と聞いたとき、多くの人は女子の姿を思い浮かべると思う。プロの世界では、女性のスポーツ選手も活躍しているし、男性のマネージャーもいるのに、学校の中だとなんでマネージャー＝女子なんだろう？このモヤモヤの正体について聞いてみた。

2014年8月、あるスポーツ新聞で、高校野球部の女子マネージャー（以下、「女子マネ」）の仕事が紹介されました。なんと彼女は、選手のために、おにぎりを2年間で2万個作ったというのです。このように、「チームのため、献身的にがんばる女子マネ」という美談調の報道は、マスメディアでは頻繁に登場しています。その後、記事は世間を少しざわつかせます。もちろん、ツイッターなどでは女子マネの働きぶりを「美しい青春のひとつ」と称賛する声もたくさん現れました。しかし一方で「（男性が表に立ち、女性が陰で支える）典型的な性別役割分業が学校教育に生き残っている」、「『献身的でかわいい女子マネ』という男性目線のイメージを、スポーツ新聞が増長させている」という批判的なツイートも多々見られました。報道について称賛と批判の嵐が沸き起こり、一大論争に発展したのです。

では、そもそも女子マネとは、いったいいつごろ日本の学校運動部（男子）に登場したのでしょうか。それは、1960年代ごろです。高度成長期を通して、女子マネは「女人禁制」とされていた男子運動部に参入し、その数はどんどん増加しました。70年代には、「運動部マネージャー」といえば女子を指すことが多くなり、学校文化にしっかりと根付いていきます。メディアに目を移せば、女子マネは新聞などでもしばしば取り上げられ、ドラマやマンガにも登場するようになります。さらに、90年代半ばには野球部の女子マネが甲子園のベンチに入ることが許可され、社会的にも認知されていきました。そして、彼女たちの主な仕事は「お茶入れ」「練習の補助」、厳しい部ではユニホームの洗濯などだったのです。

さて、女子マネ論争に話を戻しましょう。女子マネの存在やその役割について「女性差別ではないか」という批判は、80年代ごろからさまざまなメディアに現れ、長きにわたって論争が続いてきました。まず、女子マネ制度への批判は、教育現場におけるジェンダーの問題や、女子マネの働きぶりを多大に美化するメディア報道などへ向けられます。要するに、学校における性別役割分業（に近いもの）や、メディアにまん延する男性観・女性観といった「社会の問題」に焦点を当てるわけです。ですが、女子マネ本人や彼女ら

を擁護する人々は、それを女子マネ個人に対する攻撃として捉えます。すなわち、「本人が好きでやっているのだから、他人がとやかく言うことではない」という意見です。従って、「女子マネ本人の意思を尊重すべきだ」、「批判される女子マネがかわいそうだ」といった反論が生じます。

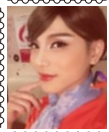
では、女子マネの存在を「社会における男らしさ／女らしさの問題」と理解するのか、「個人の自由な選択」として考えるのか、どちらが正しいのでしょうか。「個人の自由な選択」として捉える視点には、おそらく、「女子であっても、女子マネをやらない」という選択肢があるから、「個人の自由な選択」という表現を当てはめていくのでしよう。この考え方は、一見もつともらしく思えます。ですが、学校の部活で「女子運動部員たちを支える男子マネージャー」や、「女子部員のためにおにぎりを2万個作る男子マネージャー」というケースは、ほとんど聞きません。すなわち、男女ではそもそも、「個人の自由な選択」以前に、社会の中で選択肢そのものが限られているのです。これは、女性の専業主婦はたくさんいるのに、男性の専業主夫が圧倒的に少ないことも似ています。

「個人の自由な選択」は、もちろん大切なものです。ですが一方で、男女に関係なく「個人の選択肢を増やし、多様にする」とはもつと大事なことです。そのような社会を創り出した上で、私たちは「個人の自由」を行使するべきでしょう。女子マネという生き方を否定することはできないかもしれませんが、私たちはそこに隠されている「社会の問題」を深く考え、変革していく必要があるのです。



東洋大学 教授
高井 昌史 さん
MASASHI TAKAI

東洋大学社会学部教授。専門は「メディア文化論」、「スポーツ社会学」、「ジェンダー論」。主著に、『女子マネージャーの誕生とメディアスポーツ文化におけるジェンダー形成』（ミネルヴァ書房（2005年））、「健康優良児とその時代」青弓社（2008年）、「メディア文化を社会学する」世界思想社（2009年）、「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー」人文書院（2011年）など。



女装サロン
「7丁目のパウダールーム」運営
満島 てる子さんより

高校生の私は「こうあるべき」という社会の価値観にがんじがらめにされていました。「<あたし>じゃなく<ぼく>って言わなきゃ」「スカートもはきたいメイクもしたいけれど、それは女の子だけ」など。もし当時の自分に会えたら「したいことはどんどんしよう! 規範や常識に、君の生き方をつぶされないで!」と声を掛けるでしょう。高校生の皆さん、「自分らしさ」って難しいけれど、それを求め続けることを忘れないでください。

PROFILE

1990年三重県生まれ。ゲイの女装家として、多様性を認め合う社会を実現すべく活動中。北海道大学大学院文学研究科修了。女装サロン「7丁目のパウダールーム」の店長であり、札幌市におけるLGBTのプライドパレード「さっぽろレインボープライド」の実行委員も務めている。



札幌の出版社
「寿郎社(じゅろうしゃ)」社員
下郷 沙季さんより

高校生の頃の担任はいつも女子にこう言っていた。「お前らの短いスカートが変態を刺激する。痴漢に遭ったらお前ら自身のせいだ」。そして実際にクラスの子が痴漢に遭った朝、先生は私たちと目を合わせなかった。私は無性に腹が立ったけど、自分が何に怒っているのか分からず、結局何も言えなくて…。今でもそういう悔しい出来事の繰り返し。スカッと一発反撃を食らわせられるのは100回中1回くらい。やってられるか! って感じだな。

PROFILE

1990年生まれ。大学入学を機に北海道へ。在学中、学生アルバイトのための労働組合「札幌学生ユニオン」を結成し、ワークルールの普及活動や未払い賃金の回収などを行なった。現在は札幌の出版社・寿郎社の編集者。

オトナから みんなに 伝えたいこと

- 女性らしく、
- 男性らしくの先にある
- 自分らしく生きるって
- どういうことだろう?
- 高校生に聞いてほしい、
- オトナたちからのメッセージ。



札幌エムプラザスタッフ
福岡 こずえさんより

どうして母になると家事を自然とやってしまうのか。毎日の「今日ごはん何」(感情のないメッセージ)におびえながらパートから急いで家に帰る。「これ嫌い」と残され、いつしか定食屋さんのように個別メニューになっていた。18年たって本格的に働こうと思ったとき、キャリアもスキルもなくがぜんとした。その時初めて誰にも頼まれていないのに家事と子育てをやっていたことに気が付いたのだ。母親もひとり人間としても生きよう。

PROFILE

1972年生まれ。家庭を最優先にしたパートと育児と家事を18年。仕事を掛け持ちしながら、親の介護も行う。4月には大樹町のロケット打ち上げプロジェクトの支援スタッフとして活動。現在は女性支援団体に所属しながら働き方を模索中。



飲食店「学生リビング穂と葉」
運営
金井 直樹さんより

本当はどうしたいのだろう? 進路を考えると、悩む。自分が好きなこと・やりたいこともよく分からない。大人と話すとすぐに、「将来の夢は?」と聞かれる。腹が立つ。しょうもない質問になのか、夢がない自分になのか。「自分らしく」とか言われても、まず自分が何なのか分からない。「自分らしさ」にとらわれるのはやめよう。自分まで自分を縛る必要はないじゃないか。「らしさ」より「自分」そのものを大切にしよう。

PROFILE

1990年生まれ。東京都出身。高校卒業後から、自分の進路に悩み続け、気が付けば大学生生活10年目。社会人、再受験、留年、休学などを繰り返し、自分は何をしたいのかを考え続けている。2018年2月、札幌駅前に飲食店「学生リビング穂と葉」を開業。「ほっとする空間で、はっとする出会い」を理念に、年間50本以上イベントを主催。現在も進路に迷い中。



ワーキングホリデー[※]経験者
(ニュージーランド在住)
森 美奈子さんより

英語を使った仕事が見たい、もっと英語をしゃべれる環境に行きたいと思い、28歳でワーホリ(ワーキングホリデー)に行きました。仕事を辞めた不安もあったけれど、ワーホリの年齢制限間近で、今逃すともうチャンスがないと思い決断。日本では人との『違い』が不安だったけれど、メルボルンでは人種や国籍、考えが違う人と過ごすことが当たり前で、互いの意見を伝え、理解する意識が強くなりました。今は『人との違い』=『自分の個性』と前向きに捉えています。

PROFILE

1988年生まれ。日本での仕事を辞め、一大決心の末オーストラリアでの一年間のワーキングホリデーを経て現在ニュージーランドでワーキングホリデー中。いつかマチュピチュに行くのが夢!

※ワーキングホリデー:若者が協定国で休暇を過ごしながら、アルバイトや仕事を行える制度。滞在資金を補うため、観光ビザでの一定の就労が認められる。

CRITICISM



お砂糖とスパイスと爆発的な何か

北村紗依 著

1,500円(税別) / 書肆侃侃房

映画や演劇をフェミニストの視点から読み解く批評集。「男らしさについて考えてみよう」「ヒロインたちと出会おう」など5つの章に分け、作品に隠れているジェンダーやセクシュアリティに関するメッセージを取り上げています。普段と違う視点から作品を見ることで、作品への興味を引き出し、知らないうちにとらわれていたものの見方から自由になる方法を教えてくれます。



PICTURE BOOK



みえるとかみえないとか

ヨシタケシンスケ、伊藤亜紗 著

1,400円(税別) / アリス館

宇宙飛行士の“ほく”が降り立ったのは3つの目を持つ宇宙人の星。「2つしか目がないの？」と驚かれ、気を遣われてしまいます。“ほく”にとっての「当たり前」は宇宙人にとっての「珍しい」で、その逆もある。この世界には多様な人がいて、それぞれの考え方があることに気付かせてくれ、その中で「同じこと」を探し、「違い」を楽しめばいいと教えてくれる絵本です。

ESSAY



洗礼ダイアリー

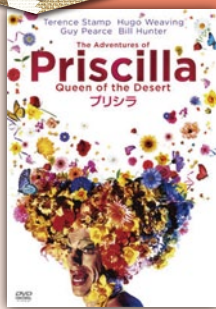
文月悠光 著

1,400円(税別) / ポプラ社

札幌生まれの著者が、詩人としてデビューした高校時代から大学、社会人としての日々をつづったエッセイ。ジュース販売のアルバイトでの出来事やセクハラ発言を受けた際のエピソードなど、日常を独自の目線で切り取った15本を収録しています。「女子高生詩人」「女流作家」と女性であることを強調・強要されてきた著者が、何を感じ、どう切り返してきたのかが、平易かつ鋭い文章でつづられています。



MOVIE



プリシラ

ステファン・エリオット 監督

1,419円(税別) / 20世紀フォックス

ど派手な衣装を着た3人のドラッグ・クイーン*がショーに出演するためにバスに乗り、オーストラリアの砂漠を横断するロードムービー。偏見や差別、さまざまな問題を抱えながらも、罵られても強くなる。みんなが強いわけでもない、でもがんばって生きるしかない。差別されても自分に誇りを持つこと、自分を曲げないこと。自分が自分らしく生きていく人生は、きっと素晴らしいと思わせてくれる作品です。


*ドラッグ・クイーン:ゲイ文化の一環として生まれた異性装の一つ。華やかなメイクや衣装が特徴。

りぶるのススメ

このページではセンター職員がおススメする本・映像作品をご紹介します。
あなたのお気に入りになったら嬉しいです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

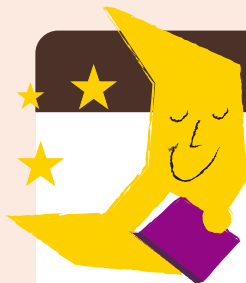
札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

 マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来て下さいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)



札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。
相談内容から浮かび上がった問題は、ジェンダーに関わる課題として市民や行政に投げかけ、男女共同参画社会の実現に生かします。

	日時	相談員	相談方法	相談内容
女性のための 総合相談	第1・3 水 10:00~12:00 第2・4 水 18:00~20:00	カウンセラーなど (女性)	面談/電話 (011-728-1225)	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの関係や、家庭における性別役割に関わること ・セクシュアリティや恋愛、対人関係に関わること ・職場や地域における性別役割に関わること
女性のための 法律相談	第1・3 金 18:00~20:00	弁護士 (女性)	面談	<ul style="list-style-type: none"> ・DVや離婚、別居に関わること ・職場や地域等でのセクシュアル・ハラスメントなど ・性別を理由とした不当な扱い、嫌がらせなど

予約受付電話:011-728-1255
※完全予約制なので事前にお電話でご予約ください。



りぶるさっぽろ
公式ツイッターはじめました。

「りぶるさっぽろ」50号の発行にあわせて、公式ツイッターの運用を開始しました。りぶるさっぽろのテーマや特集などについての情報発信や、皆さんからの感想や意見の募集を行っていきます。登録のない方でもご覧いただけますので、興味のある方はぜひアクセスしてください。登録のある方は「#りぶるさっぽろ」をつけて感想の発信をお待ちしています！

Twitterへアクセス
<https://twitter.com/RippleSapporo>

お問い合わせ | 札幌市男女共同参画センター事業係
TEL: (011) 728-1255 Mail: jigyou@danjyo.sl-plaza.jp

編集後記

今号の担当者である自分がジェンダー(＝社会的性差)について考えるようになったのは、社会人になってから。個人よりも性別で役割を求められる場面がなにかと多いと感じたのがきっかけでした。

とはいえ自分の学生時代を振り返ると、「男は根性」「女子は愛嬌」といった具合に、随分ステレオタイプな男性像・女性像にとらわれていた気がします。「当たり前」と思い込んでいたことを振りかざして、相手を怒らせたり傷付けたこともあったはず。でもあるとき、その「当たり前」は自分自身も息苦しくさせていると気付いてしまい、「当たり前」の中にはジェンダーが隠れている、と考えるようになりました。

みんなも「当たり前」をどんどん疑って、価値観をアップデートしていったほしい。これからの社会をつくっていく若いみんながそうすることで、誰もが自分らしく生きられる社会になっていくんじゃないかな、とこの号を作りながら改めて思っています。

発行月: 令和元年9月
発行: 札幌市男女共同参画センター
【指定管理者: 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】
facebook: <https://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904>

所在地: 〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
電話: (011) 728-1255 FAX: (011) 728-1229
ホームページ: <http://www.danjyo.sl-plaza.jp>

本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。

